

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 水稻

発行日 平成28年 6月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆6月24日調査の結果、水稻の生育は平年より2～3日程度遅れていますが、葉色は平年並です。
- ◆目標茎数(20～30本/株程度)を確保した圃場では、速やかに中干しを行いましょ。
- ◆水稻の生育や天候に合わせた水管理を行いましょ。
- ◆圃場をよく観察して、葉いもち発生に注意しましょ。

1 生育概況

6月24日に各農業改良普及センターが実施した水稻の一斉生育調査(22カ所、延べ36品種)の結果、県全体の生育は草丈39.2cmで平年より0.9cm短く、茎数は399本/m²で平年よりやや少ない(平年比91%)状況です。葉数は8.1葉で平年より0.5葉少なく、生育は平年より2～3日程度遅れています。葉色の目安であるSPAD値は概ね平年並です(平年差-0.8)。

表1 平成28年生育診断圃の地域別集計表(6月24日現在) 各農業改良普及センター調べ

| 地帯名 | 草丈 | | | 茎数 | | | 葉数 | | | 葉色(SPAD値) | | |
|-------|------------|------------|-------------|---------------------------|---------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------|------|
| | 本年 (cm) | 平年 (cm) | 平年差 (cm) | 本年 (本/m ²) | 平年 (本/m ²) | 平年比 (%) | 本年 (枚) | 平年 (枚) | 平年差 (枚) | 本年 | 平年 | 平年差 |
| 北上川上流 | 37.2 | 38.0 | -0.8 | 365 | 404 | 90 | 7.7 | 8.3 | -0.6 | 41.0 | 41.5 | -0.5 |
| 北上川下流 | 39.9 | 41.2 | -1.3 | 407 | 456 | 89 | 8.2 | 8.8 | -0.6 | 41.3 | 42.3 | -1.0 |
| 東 部 | 40.3 | 38.5 | 1.8 | 448 | 421 | 106 | 8.2 | 8.2 | 0.0 | 43.1 | 41.7 | 1.4 |
| 北 部 | 38.3 | 37.6 | 0.7 | 425 | 408 | 104 | 8.0 | 7.9 | 0.1 | 39.0 | 39.2 | -0.2 |
| 全 県 | 39.2 | 40.1 | -0.9 | 399 | 440 | 91 | 8.1 | 8.6 | -0.5 | 41.1 | 41.9 | -0.8 |

注1: 平年値は原則として平成23年から27年までの5か年の平均値を用いた。

注2: 平年値および平年差(比)は平年値があるデータのみ平均である。

注3: 表中の数値は端数処理を行っている。

表2 平成28年生育診断圃の品種別集計表(6月24日現在) 各農業改良普及センター調べ

| 品種名 | 草丈 | | | 茎数 | | | 葉数 | | | 葉色(SPAD値) | | |
|--------|------------|------------|-------------|---------------------------|---------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------|------|
| | 本年 (cm) | 平年 (cm) | 平年差 (cm) | 本年 (本/m ²) | 平年 (本/m ²) | 平年比 (%) | 本年 (枚) | 平年 (枚) | 平年差 (枚) | 本年 | 平年 | 平年差 |
| いわてっこ | 37.7 | 38.1 | -0.4 | 397 | 400 | 99 | 7.7 | 7.8 | -0.1 | 38.8 | 39.0 | -0.2 |
| あきたこまち | 35.8 | 36.7 | -0.9 | 355 | 383 | 93 | 7.8 | 8.2 | -0.4 | 42.3 | 42.1 | 0.2 |
| 銀河のしずく | 42.3 | - | - | 427 | - | - | 8.0 | - | - | 39.5 | - | - |
| どんぴしゃり | 40.8 | 41.7 | -0.9 | 415 | 459 | 90 | 8.3 | 8.7 | -0.4 | 40.5 | 42.0 | -1.5 |
| ひとめぼれ | 41.5 | 41.4 | 0.1 | 434 | 470 | 92 | 8.6 | 9.1 | -0.5 | 43.9 | 43.0 | 0.9 |

注1: 平年値は原則として平成23年から27年までの5か年の平均値を用いた。

注2: 平年値および平年差(比)は平年値があるデータのみ平均である。

注3: 表中の数値は端数処理を行っている。

2 6月下旬からの水管理

(1) 気象予報

東北地方の1カ月予報（仙台管区气象台、6月23日発表）によると、向こう1カ月は曇りや雨の日が多く、降水量は平年並か多い確率がともに40%、日照時間は平年並か少ない確率がともに40%です。平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。

平均気温について週別でみると、1～2週目が平年並か高い確率ともに40%、3～4週目は平年並の確率40%です。

水稻の生育や天候に合わせた水管理をしましょう。

(2) 中干し（幼穂形成期より前の時期：6月下旬～7月上旬）

目標となる茎数（株あたり概ね20～30本）に達したところでは中干しを行いましょう。茎数がまだ不足している圃場では、浅水管理を継続し、分けつの発生を促しましょう。

(3) 前歴深水かんがい（幼穂形成期前後：出穂の約23日前）

1ヶ月予報では平均気温が平年並か高めに経過すると予測されており、幼穂形成期は概ね平年並と予測されます。

低温が予想される場合、幼穂形成期の数日前から入水を開始し、幼穂形成期に4～6cmの深水にする（前歴深水かんがい）ことで、幼穂を保護して障害不稔を軽減できます。

(4) 前歴深水かんがい（減数分裂期前後：出穂の約11日前）

幼穂形成期の深水管理後に低温が予想される場合は、10cm以上の水深を確保してください。17℃以下の低温が予測される場合は、15cm以上の深水としてください。

平年並～高めの気温が予測される場合は間断かんがいにします。

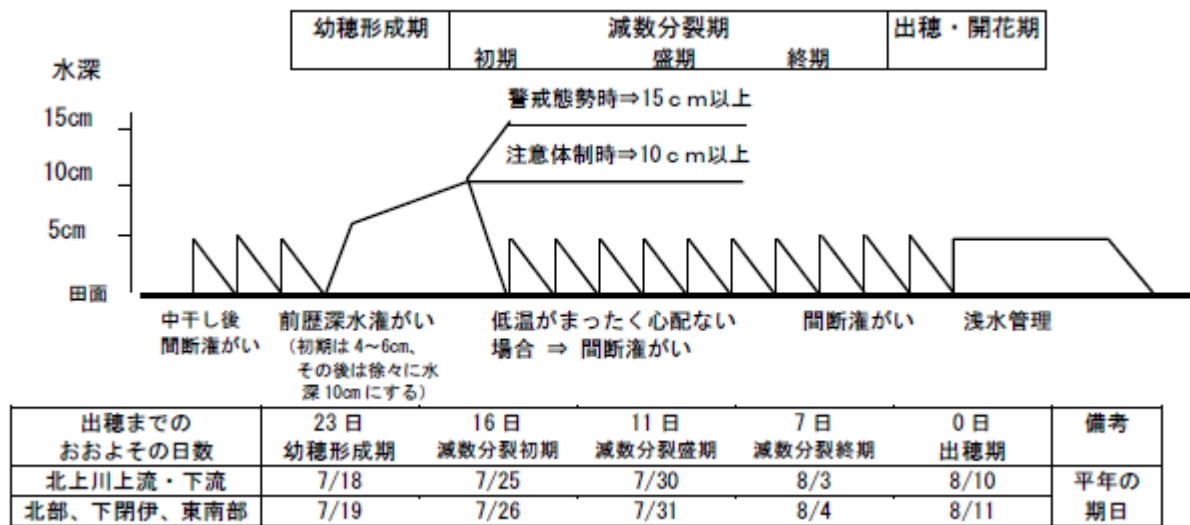


図1 中干し後の水管理の模式図

3 追肥

今後の追肥判断のためにも、葉色の変化に注意が必要です。良食味米生産の観点から、品種、気象・生育状況をみきわめて、適期に適量を施用しましょう。詳しくは各地域で発行される技術情報等を参考にしてください。

4 いもち病防除

(1) 葉いもち

6月中旬にいもち病の感染に好適な気象条件が観測され、継続的に出現しています。

いもち病は、気象条件により急激に広まるので、圃場の観察と早期防除を徹底してください。

圃場をよく観察し、発生を確認したら、葉いもち予防剤（箱施用剤、水面・投げ込み施用剤）施用の有無にかかわらず、直ちに茎葉散布を実施しましょう。

(2) 穂いもち

穂いもち対象の予防粒剤を散布する場合は、次の点に留意してください。

ア 水稲の生育状況に注意する（散布時期を逸さない）。

イ 圃場をよく見回り、葉いもちが発生していたら直ちに茎葉散布してから粒剤施用する。

ウ QoI剤（嵐剤、オリブライト剤、アミスターエイト）は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤およびアミスターエイトを本田では使用しない。

5 斑点米カメムシ類の防除対策

(1) 防除のポイント

病害虫防除所が実施した6月中旬の調査では、本年も畦畔や転作牧草のイネ科植物で斑点米カメムシ類が確認されています。

斑点米カメムシ類の増殖源となる畦畔等のイネ科植物の管理を徹底してください。

なお、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する計画がある場合は、養蜂家と協議の上、散布時期を事前に通知するなど、ミツバチへの危害防止に努めてください。

(2) 耕種的な防除対策

ア 畦畔や転作牧草等のイネ科植物が発生源となるため、水稲出穂の15～10日前までに地域一斉に草刈りを実施しましょう。

イ 水田内の雑草も増殖源となるため、水田内にノビエ・ホタルイ・シズイ等が多発している圃場では水田内の除草に努めてください。



図2 シズイの花穂とアカスジカメムシカメの成虫



図3 畦畔雑草が伸びている状態（草刈は地域一斉に行いましょう）

6 直播栽培の本田管理

(1) 直播栽培の生育期管理のポイント

直播栽培は、移植に比べて生育量が小さくても茎数過剰になりがちです。

圃場を良く確認し、目標となる茎数（株あたり概ね20～30本）に達したら、直ちに「中干し」を行いましょ。現在直播栽培の多くが、鉄コーティング湛水直播であり、表面播種のため倒伏しやすい欠点があります。このため直播栽培では株支持力および地耐力を高める中干しの実施は特に有効です。

(2) 病害虫防除

粒剤の水面施用または茎葉散布による防除が基本となります。

散布する薬剤の選択は、岩手県農作物病害虫・雑草防除指針（移植栽培）を参考としますが、飼料用米や稲発酵粗飼料（稲WC S）では農薬の使用に制限がありますので、農業改良普及センター等に確認のうえ使用してください。

ア いもち病防除

(ア) 葉いもち

予防粒剤を水面施用した圃場では、7月20日頃（初発が早い場合や多発年は7月15日頃）から本田を巡回し、発生が目立つ場合は直ちに茎葉散布を行います。

(イ) 穂いもち

予防粒剤の水面施用（出穂20～10日前頃）、または出穂直前と穂揃い期の2回の茎葉散布を基本とします。

イ イネツトムシ

飛来性の害虫で、本県での発生は例年少ないものの、生育後半に葉色が濃い場合は、大きな被害を受ける場合があります。圃場観察を十分に行い注意しましょう。

ウ 斑点米カメムシ類

移植栽培と同様に防除しましょう。

(3) 追肥

追肥の要否は、移植栽培に準じて判断します。

鉄コーティング湛水直播栽培は表面播種のため、移植やカルパーコーティング湛水土中直播に比べて倒伏しやすいので、追肥窒素分量は移植栽培の基準より控えめにして、様子を見ながら加減しましょう。特に耐倒伏性が弱い「ひとめぼれ」「あきたこまち」「いわてっこ」等では注意して下さい。なお、移植栽培に比べて明らかに生育過剰と判断される場合は、倒伏軽減剤の使用も検討しましょう。

次回の発行予定日は7月28日(木)です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。